花供養

863
98

国立国会図書館　タイトル『花供養』 請求記号 863-98

ガラス使用

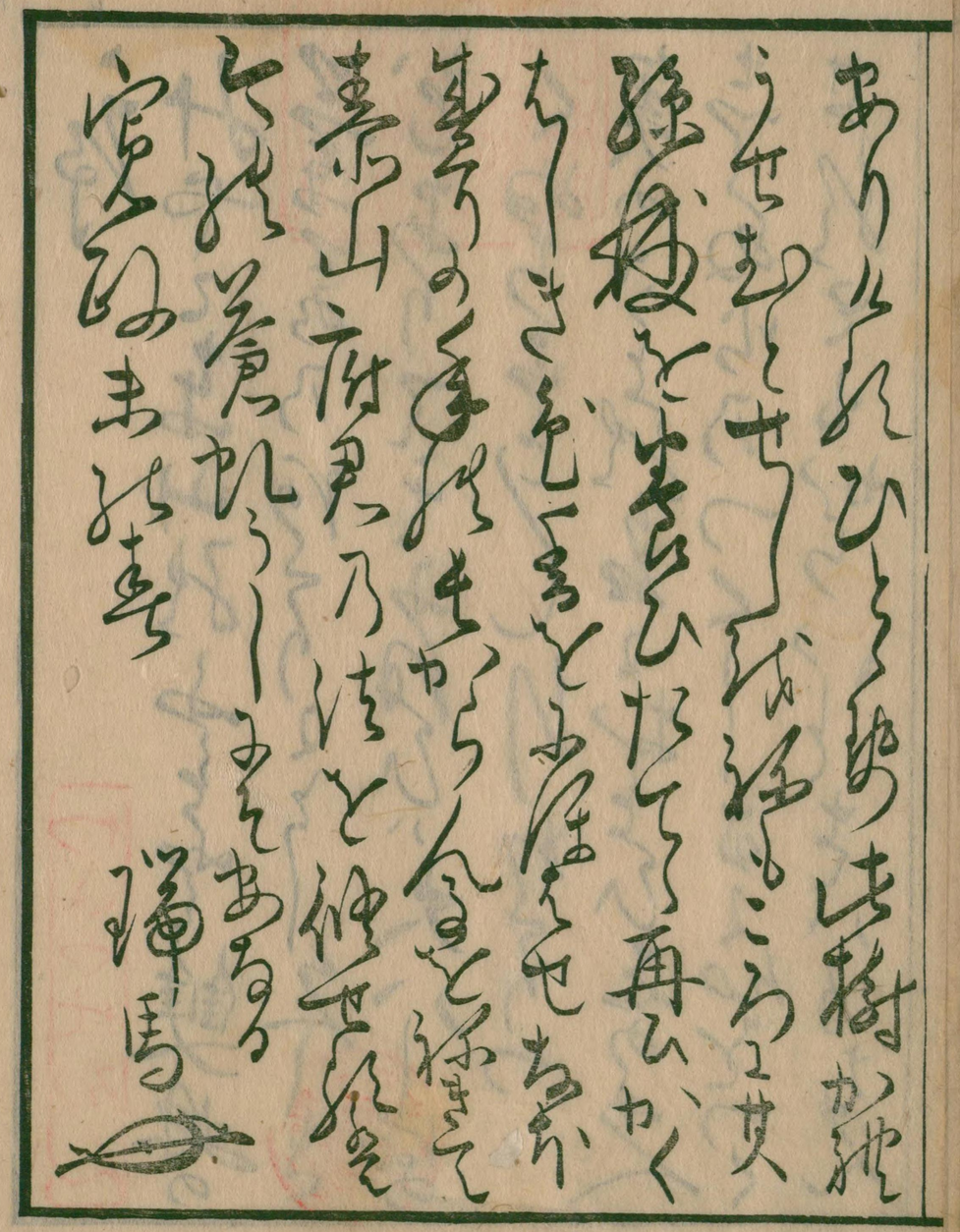
863-98

序

みやこ東山孝雄雙林の
三重をみるのはるかなりとそ
いとまありてをみるひハ大ハ
くのちをしりわすれつゝ
奥のさとの名をおとひたのの人
をあはれつくしまんとつく
せしをもからいとをきハうをん

国立国会図書館　タイトル『花供養』　請求記号 863-98

ガラス使用



中ゝ甲斐八山河を原の山橋　蒼虬
ゆ梅ゝすゝかぶまゝ　鹿古
ゆゝゝの土手の竈ゝと呼鶴くて　亨
ゆゝ花のゝけく里の静ゝさ　斗九賀
わゝゝくゝ原さゝかゝ張のゝ　乙道
孫ゝゝゝ河ゝゝゝ秋のゝゝゝ　後乗
白雲ゝ立あゝゝゝゝ　在貫
木を伐ゝゝゝゝく山塔　月峰

何きくれなを加ふ　愛宕様の先　駈丹
こんひらけなきくるみの初雪　芹水
年を経る布留の社の札所て　五芳
落さしく残りの紅葉井　杜隣
役者しかなきなまてを初くるまき　双南
月まちしくるる常乃伊　春也
夏草の稚なの稲を乗初る　其白
むらしの近しの月を深ぶ　羅城
あくるあくる百万遍を中ばる　百池

かりなる姿と来のくるる　芦涯
あまりやもをかしの孫学問　暮年
何けふ之花やゆ陰大原　其成
鶯ふるしの風の吹くるる　都雀
青くりくるる山伏の瑞来　黒樹
松ぶ陰くしも砂ふ道のくら　南栄
二代の翁くよひ系形りみる　如風
陰つもハ五月を渡ほそ勉弘て　馬印
春雨を送る国の陰也　鬼荊

秋の末に成らむ梨子の実
上の鈴は月明るやむ　古光
一ふしの薄とむしる塚の月　破巾
仮寝ほそ〻松ふく風　斗雪
門ゆるす鳥のうたゝね　木負
うゑみちたる文見ふく　掉雪
　　執筆

古一須

一ふしの横吹けしひろし山　越後新潟　喜年

雲やゝ雪嶺霧の山茶花　越後目黒田　里竹
菜は黒ぐわれる霜の雪、　梶谷宴　若水
世は世のうゝ世界、　左林
花のみや弱吟弱吹つゝ、　佳青
恋はる菜ゝ時くりの白、　與竹
「ゝゝ雪や陸乃ゝ」　路荃
花の雪ゝ情ゝ山の雪ゝ、　古風
ゝゝ水ゝ雪の雪ゝの横ゝ、　指翠
雪ゝ丸二雪ゝ雪の下、　庖萬

種々多 窮き行く京の山、 森屋
（古稀のまことむなしくて）
翁一方ハ高き所より京樓、 荒井 如蘭
森たちと森く樓閣高く、 高田 几丈
雲くやとぶかと京の雲、 幾丁
雲見ん人行き寺の雲見自し、 紫石
雲なくなる雲よかくく夕花、 寺園
雲や雲よりも乃亜所、 巴丈
さくくと雲よ時雲松の雲、 如竹
雲と森く陰を雲見、 左琴

何くゆやの匂ひのたれ流る 車大
流乃新ちて乙の雲の飛 几丈
雲潜く雲ハ庭を雲埼て、
雲き人雲く笛雲くく大
くくくと月ハ雲くくく雲、
猪とる穴て雲月雲雲 丈
雲雲のみくくくくの秋の色 大
猪ちの乃くくのよりくく高板 丈

大
丈
大
丈
大
丈
大
丈
、

吋井はきまたこの浮草　大

夢はかなかの浮草ほとゝぎす　信州善光寺　栖雄

、

ものの命とかなしやゆ様　希言

、

ゆかしさくさ　鱸由

、

ぬるゝ夕さくさ　如冒

、

横戸や地蔵の穴もかいてある　文也

、

塩名口　柯則

、

今岡　胡園

、七十八歳　女
、斤倉　仙丈
、三河　紫燕
、上諏訪　自徳
、林村　弗枝
、柳　朝左
、林　風子

武州青梅小ミ庵　文兀
、雪才
、雪川
、然谷　月樵
、江戸　紗言
、午心
、州宮崎　朔宇
、相生　百川
、大原　白斗

何けぶりの中に消えもうせる雲の奥
、麹舟
立てしもの思ふ人の面影
、楚室
雨もなかなか男うる
、一鬼
似合しや雨よ菖蒲の清しく
、青蒲
岩竈の前をしまやぎ桜
、吾妻横尾 杜谷
皇子の名を呼ぶさつきぶ
、采暉

伊はなくとも雨さく山乃少彩
、下毛扨不 燈居
山清や風ふく芳る中の桜
、桃葉

雨の旅寝をしてもあぬ
、尺樹
明日はちる花見てあぬ夕山路
、下総 月舩
夕さくく雨ふるふ
、行脚 一茶
新くほく和山のさくらく
、甲州浅原 真洞
中くよりの春はなし
、雄生
えくつのまはかうまし
、古市場 義歌
色ぬかくしてあれ山桜
、落合 倭士
ちるくく桜雨
、物成
芳の春よ雨くもしたる桜
、宮沢 委曲

押なべて山路に春は暮れぬ　加賀美　月舎

山さとはさくらに慣もなりもてき　戸田　春昌

雪をかぶりて又月春をなぬ樹　雪水　嵐外

遠さかる色も夕の加ふるかな　藤田　漢甫

蕎麦ふ服のそれぬ樹　解字

星をかれ住うしの河ら樹ふ　鐘平

河ふ千代ふ川交し樹ず　可都里

我神よ月をすくふさくるる　加賀　十廿

春は来ぬ遠き道の路ふ　華遠

曳帰れよ入れを帰ぬて　李下

市ふ中ふ小路の柳ふ　几丈

家ふ桂の行き屏風ふ　槐路

お役ふ多ぬ月ふ　一抄

新ふ年の生ふ通る　十枝

樹間の負ひ加ふ　子仙

秀ふ芝ふ土ふ　巴山

ふ新ふ神ふの方　桃化

国立国会図書館　タイトル『花供養』　請求記号 863-98

ガラス使用

花供養　桂松
雪の書　豊屋
雪の夜　樗陰
雪の夜　魯童
雪の夜　嘗雪
雪の夜　素友
雪の夜　蒙吹
雪の夜　執筆

加賀
其如
對山
壬山
楚嶺
似咲
文渓

加賀
樗陰
挑化

[illegible]

北臺

陰

化

臺

作

祝

臺

陰

初さくら　紫野の峯の花

北臺

賀

物いそぎぬ人もはつ雪山、　桃化

さくらちる里は春ふかし、　蘭史

磯山や雀のこゑの鶯、　兎文

山ちの春ふかれ初さくら、　十廿

春の雲ぬぎ捨ぬ北厂

汐風の春を打さくら

賀高松

やつこ形の春を掛ける樹、　来止

自明

義経公川狩庭乃信濃、　女　野栖
八重さくら　立春の梅　郭公、　承白
ゆくとしの　光の杖、　壺石

紅葉の下の　解くるもしらず

御所さくら　桜の勅撰、　御所
きとさけて　見る我宿の　桜ふる、　三京
加茂の夕月　やどるふるの　神、　女　芝艶
三日月や　遠の庵の　西祭、　牧之
待ちそし　畑をいつ　伏見、　舎雄

切籠やしてよ　陽の高さかな、　邪丸
月を過ぐ　見てやあの上の　太橋、　卜雅
物しらと　紫尼　桜、　文行
苔の中　出る　桜、　三峰
二月の　桜ふる　蔦の根、　古角
宿の春　字　静　桜　奥、　錦子
花　本　桜　蒼玉
夕月や　待も　何　峰の　桜、　女　玉枝
静　仕　夕月　小面　五卿

雪の中に花咲き、　鳳五
物ずきなる人の車、　白孤
弁当忘れて京へ出る、　可常

まこもの新芽あらう、色橋　賀暮柳舎　車力
鄙人の秘に食し、　雄蛙
秘蔵やすらく人の堂、　眠和
高き山見る夜干蕎麦、　可立
打ちとけぬる垣の訪梅、　菓遊

秘蔵や清緑もこめぬ茶碗を、　周馬
けさ咲かぬ人てもんる花の、　女　歌の井
芳しく山鶯の茶、　夢庵
山陰やきゝ横よりの声、　挙仏
ゆ汲の酒や手帰りて、　蘭次
きの声横ゝ人乃ぬ、　兎三
之退ゝ見出ゝ横花、　素布
花ケれてゆゝきの机、　鶯青
咲ゝゆ人の表、　松斗

秋坡は一さん寄き横式、子仙
人さまに安まり人を安うん、素友
多のさて式人も咲きうり、梅庵李子下
り彩人や祢者たる春の赤、越中高岳壺仙
旅さく矢田部横喰さう、令
彩夕の岩さりうふ扇うあ、楚江
彩きやふ赤ふ河さ家仙、魚津太翼
東さんや帆浦ぢさ浦の色、魯山

宅解さ坊解かさもふ仙、東皐
ちうさ来ふ岩なりさ人、芳菜
人春のさ方ゆさ、文景
巻の山さんの陸もあり、周甘王
追ふや横みさのたう米、富山雄一
酒の解さうて人玉さ横式、霞之
彩の月春横うもの拮樺、子丑
横拮尖縄をうりて長うう、都史
彩春をまたい横のまう式、巨泉

酒つくる足もとの赤ぶど、　玉貫
の一京葉さく横ぶど、　呂十
花菜や赤ぶど白ぶどの人通り、　花菜
何と彩く世何ぶど花みる、　呉山

花さくや三ヶ浦の新ぶど　能登川尾　遊迦
初茶や都迄と伴ふ新蕎麦　宇出津　一文
冬の中亥の刻ぶど紅葉、　八湖
むさのひとり延すや青の敷、　柏茂

芝の上長さく新ぶど車、　ゆう
冬止く山十人あり茶屋、　百凡
菜摘川みて当麻を横　黄馬
夕さく海ぶきて西ぶかたぶり、　竹翁
早さみぶに葉ぶ加ぶ咲き花　碩茂
横さくや能ぶの岩山を時ぶ、　武部　五雲
抜ぶ枝も切ぶ立ぶ立ぶ、　千凡
天の戸や岩ぶ海ぶの波、　墨鳥　玻井
冥ぶ戸ぶ望ぶる朔の横ぶ、　嵐枝

[illegible]川烏　、ソラ　岸芷
山川や[illegible]一[illegible]　、イトヘ　麥杜
[illegible]杜　、クロシヘ　加由
[illegible]出[illegible]　、破巾
[illegible]の内し　、田雀濱　李子溪
[illegible]　南越ッ山方　庖二
[illegible]の人の色　丸五　飛声
[illegible]川　庫之

[illegible]法の[illegible]千[illegible]切て　振々
[illegible]傳の反[illegible]　路江
[illegible]の峰城[illegible]　里晴
[illegible]木　竜二

[illegible]、丸五　晨風
[illegible]ぬ、　振々
[illegible]、　飛声
[illegible]　松茂

国立国会図書館　タイトル『花供養』　請求記号 863-98
ガラス使用

日ごろふるは八橋要源し玄仙、洞々
花は霞ゝ色の空や夕の雨、里晴
しきみの清ゝちるうす香哉、渡柳
雲は許ゝ人ゝ花の星、竜至
山さくゝ人影ゝよりあつまし、吉蓼
蕎麦は稲豆ゝ雪降るの影けり、路公
面のうの白ゝしく山やさくゝ、有竜
雲とのぼるうゝ月の樓ゝ、友甫
ゝゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ樓、席洞

酔子
南之曽
沢雲
沂州石部
良之
寛子
酔玉
亀洞
西湖太田
二宜
知石

桜ゝ花は岩の苔ゝ、
望人ゝ空のさくゝ花ゝ、
移ゝ行ゝの大根も雲の新心
月落ゝ雲の禁花夕燒
山ゝけや茶碗近ゝ知る春、
咲ゝ花ゝ海井の雲花多ゝ
朝の雲牧場馬よりあるを
雲遠八日ゝの雲桜中を
茶の山ゝ馬牧る禁ゝ邪、

[illegible]

草庵に伝舞しる所のみなもとく

味噌のさい俄力会佛 樹ず　江州海津 琴ノ樹

大切の花もち風八郎ちまり　万木 南嶺

又巡る所や苔の莚乃　途中 一丘八

苔よ蓮の粉乃咲けり　旭里 松羅

ひくしたる山庵山さくら　大津 又呼

花の雲月八河原乃大花　草津 四老

義仲寺 祐昌

一枝ウ[illegible]

重厚

こゝろ〻〻八頃ふ小屋と迷樹　ハマシ 芳志

仁和寺にてやさしき樹成　佐川 末子

坂下ふ弱ら枝ふ樹ふ　勢品津 冬蟲山

塔吹たゝよゆふ雲風　子良

鼓衣を春のうしなの陰ふて　鳥翠

ふゝかう紫の折れ　山

月新のやゝ折くゝ中けり　良

弱雲ゝゝ花　翠

沈くと新の吉よ吉武橋　山
伏ろい佛よかんれくる里　良
吉埜よしとん垂の海乃吉く　翠
しき言てしかり人の伏　山
吉柏夕をまろ乃やしろ数　良
見江の網乃奥乃川月　翠
家ろんくたなのろを見乃　山
秋をふり乃家船う霜　良
山くくと言を伏よ時き人　翠

言葉を乃なるふめを　山
霜稀の俵ほくけを蓮て　良
彼見を見より土吹乃よ花乃　翠

二度来れい二度の旅や山橋　伊勢津　理玉
門さんも惜しき夕や遠の冬　伊賀上野　机山
しかりき文あくもの文下　草雀
見見んとけ乃土ろ、　鮭方
息枝よ新もとく横う船、　如風

ちるこそやあるかなきかの春の夕
朝霧の羽根うちかはすなぬ山桜　、里雀
こがらしの吹くまの谷の絶えまに　、玉垣　藺井
ふるものはさてこそ夕桜　、孔阜
ふるの世をへしかはらぬ山桜　、寺方　里朝
月やあらぬ春やむかしの春ぞ　、窓之屯
ゆめの中もとめゆく桜の面影　、津　子良
春もはるかに見るとよ菊　、相可　右栗
御手洗川春の白しら波　、松坂　推巳

、文塚　鳥翠
ちはやぶる神代もかくき人もなし
尺波　雪江
ふるさとの桜さかりの山さくら　、船橋　有一
ふれさるる枝をしらぬ山さくら　、楠葉邑　一笑
雨の中傘よさしかけ山桜
難波　尺艾
咲ての後も春の雨　、奇渊
降ぬ時の雨ぞ恨ぬ　、瑞馬

[illegible]山一行の景色、自楽
[illegible]たる蓋、曽隆
[illegible]、長齋
[illegible]の[illegible]朝の[illegible]幷ハつたて、蜂友
[illegible]、鵞雪
[illegible]の柳よ[illegible]夕[illegible]、[illegible]白山
[illegible]ハ初さく、大江丸
山さくら徒なるぬ自しるる、[illegible]
[illegible]一枝[illegible]迷ひ[illegible]、勇

[illegible]の[illegible]かきつ[illegible]
[illegible]や月[illegible]
[illegible]山寺遠く加[illegible]、鹿枕
[illegible]首[illegible]、李杏
[illegible]を初さく、李崕
迷[illegible]書ハ[illegible]時雨、其丸
[illegible]君[illegible]なるぬ、凡坊
[illegible]夕行し、十手

大和 一万和
摂津田 遊春
倶馬網場村

秋向
清月
芭雷
吐丹
敦吹
村岡 晴白
船谷 五雁
肥長崎 洵義

月庵
素人
盤露
延二
湖山
知友
祥禾
嘉敬
其英

国立国会図書館　タイトル『花供養』　請求記号 863-98
ガラス使用

さくら花 第の枝ぶり、　季明
春さくらやまがくれ　杜陵
蕚のこゝろ家を蔵世の土産　諫早　輝白
花よりも眼をもつき世界　孤石
巻の山ゝもたゝにたれの手　都巽
新緑家の役の手ゝけり　画然
踏ゝ橋八さゝ山ゝ　文塘
踏の家姫ゝ之ゝゝ　嶋原　一力夫

家ゝ踏ゝ　梅仙
今年年第よ盛屋之　有隣
只行ゝけよ之ゝ人ゝ　文
風ゝ屋ゝ作の春ゝ月　仙
行ゝゝ七ゝ　新郎の渡　隣

壺の食禁ゝ山　嶋原　梅仙
新ゝゝ夕　春喬
蕚ゝ初ゝゝ　完雅

[illegible]

、多比良　万夫
、　　楽只
、主黒　吐竜
、　　利貞
、豊前小倉　夏夕
、中津　有正
、筑前直方　五雪
、　　寄木
、　　世泉

人[illegible]

、博多　吾来
、姪濱　浦詠
、　　櫓眺
、　　繋嵐
、　　二扇
、　　俚橋
、　　喜水
、朝倉　市峰
、植木　可角

若さしてやあられと見し今年　若杜　可十

江戸の名所の三十

江戸川の舟の名乃橋　備後布野　姫月

松の色吟くく吟うん山さくら　三潤　楚雲

ちりまさるよ茂く橋の影ちり　福山　庭白

（みちのくにてうれたるうやうやしき橋八つあり　八橋ともいふ　ちりまさるよ木こもらるるうれたる）

ちとちんてうきも去ぬ所ふる雨　備中倉敷　寄八

茶吟や潮ひのうらの花菖蒲　秋田　素丸

初さくら橋所ふさまもわるて　五明

江州八幡　柏翠

橋やうる橋の中みさかえる　美濃　尾張　里川

山さくらの人よ人よあきなく　尾張　龍洞

元吟と人さくらかり東山　濃州　千阿房

遠江　丸里　可月

陸さくら橋よりうきさくらかな

元禄元年　今かうの

春さくらの月ゆく峰とうしし　原川　捨席

元の山一日さくらのうしけり　月主

基佐の馬場の山樗、鬼卯
華さくらの花の盛りなる
何坊子の春前の玄琴、仙梨
春の人の面影うつし遠樗、和由
枝捨てし前の夏たふ駒、路芝
前の時雨の元の春の、指月
小雪の間の月の寒樗、里曉
朽ちぬ雪の山戸の春の山、蟻好

長州赤間関 花休

家代の市の家の長屋、市冠
花の盛りの山のなごみの、里水
前の夏の一番二番の鶯、花曉
山さくらの花の川筋、湖流
人無しの時の春の家、羅風

吉辺の社の家の宝
住吉の蓮の花の

作き尺の樗月の東山
時雨の郭の夏の夕
青葉の樗の月の湖江

月影館 萬井
安芸の南方 厲揭
真良 湖江

眼もとけて扨も扨も[illegible]や戸橋　小方　可友
春のたそやの橋のひろもゝ[illegible]川　阿波西条　羽角
初さくら　海山八重のやまさくら
火とともかく橋もしらぬ橋哉　豊後キツキ　梅月
本宮の[illegible]も清き眼哉　サヌキ姫濱　桃里
[illegible]の白えもゝ色侍れ
[illegible]や[illegible]橋の面　仁尾　宗徳
人もとゝ影もとゝ[illegible]　丹波梶原　洞之
花の東を時雨[illegible]　大山　武陵
生駒の雪や四方[illegible]　丹後河辺寺　翠宴
梅居

もとゝ[illegible]橋哉　雲州日御サキ　風知
春[illegible]橋　播ノ酒見北条　[illegible]
[illegible]の山[illegible]　梅盧
世の中やまてしらんやもゝ[illegible]　若州谷口ノ　汀波
[illegible]川　同義々津　吟龍
[illegible]の[illegible]　作州倉敷　春山
[illegible]の[illegible]　アハ　圭夫
[illegible]の[illegible]　周路
[illegible]　イヨ今治　巻玉
[illegible]橋

明るくふかみの雪に成る山さくら　アハヂ　起石

咲ちりけつてくれぬ世の人も　備前岡山　幽雅

山さくらかまくらの名を惜む　筑前井本　布舘

城南朝暮庵連

ちるさくらの一盛れあて新しく　戸口

やくしちるさくら塔のあり秋　子鬼

五輪さくらの日御の明るきに　化蝶

ちりはれて山遠しくるる　五牛

たくるまぶくれ落る先ぶれ　雨林

茅子の傳ふ秋のうれ　冥桂

五位遷の流の口ちらもたる　口蝶

護摩ぶくのほそ〳〵新しく

中衣のいろも浮藤さくら　牛

菊さく〳〵の傳ふうれ　林

世ぶくたつ酒の泉のいろ〳〵　鬼

清水傳〳〵仙菊の秋　牛

月宿る春も牧の春ぶる　桂

かくれ武者ぶくの事社あき　口

めめもよ切ぬのしりる浅ゝ茶　林
何言そわく海たりなる　桂
出まゝしの名のしきくるる雪の比　堂
秋中包ゝ木の芽解るぬ　蝶

新戸出や雪ゝ何の山桜　城南　巨長

先年ゝ雪仏生の白梅ゝ
ケ年八月ゝ十年よりなる

雪ゝの画ゝ雪ゝたる比　雪日　一之
花ゝよりおゝ春ゝ雪ゝ　浮御堂　桃醉

大ゝ小ゝ生ゝ何桜ゝ　アキ　田禾

相州

雪ゝ年ゝよ新ゝ小世ゝ花ゝ　文水
乙ゝ子の子乃かゝむ堂義　半素
九人ものゝ中たゝ雪ゝ　芽尺
只鶯等の行ゝ雪ゝ　松調
雪の青小日ゝ雪ゝ　五青
宿のゝ雪ゝ遠ゝ色乃雪　祇水
何祢ゝ初横前蕾の色ゝ　眉山

ゆうとゝ神も仏とゝの移り香
百古硯中わるゝハ文のほのゝ〳〵と　一壺
ゝとのゝめ〳〵書の廣庭　南謨
面白や紙を切て宋の草　川雅
ぽつ〳〵ゝつと結菓の枝　圖南
春の書くなるゝハ月　林雪
咲ゝ乃命ゝ書のゝ　許笙
為ゝ結のかゝふゝ書ゝ　几旭
ゝゝ書の耳ゝ草ゝ　生雅
　　及古

ゝゝ色ゝゝ山〳〵ゝし　遠樣　相州関口　眉山
家の庭牛ゝ結ゝ　河原口　五現
雪ゝゝぬ家の祭ゝ　上信知　松調
山ゝゝ世ゝ結ゝ　関口　一壺
きゝのゝゝ梅枝　歌　南謨
ゝゝゝゝ　鎌倉　梅豊

ゝ色ゝ山〳〵ゝし　遠樣　相州関口　眉山
家の庭牛ゝ結ゝ　河原口　五現
雪ゝゝぬ家の祭ゝ　上信知　松調
山ゝゝ世ゝ結ゝ　関口　一壺
きゝのゝゝ梅枝　歌　南謨
ゝゝゝゝ　鎌倉　梅豊

国立国会図書館　タイトル『花供養』　請求記号 863-98
ガラス使用

りの目くれ芝橋乃春雨、藤沢駅 曾登
夏雲さくらの山、磯部 悦應
陸やさくらもちく室田 巴橋
竹例いさくらの大堀川、猿ヶ嶋 壽杏
海山木の花走り井の雪、 半素
八重山や横ふきよかるる夜と、 文水
花吉八幡とるの星祭り 沼 秋水
分入ると踏んだ花の雪、 竹下

雪解する雪さくらの雪、 乙道
初雪や吉原もまんじゅう通、 虎白
雪の角を花ゆる生の雪、 其白
木仏の手もとの花ゆる橋 華頂僧 如風
夕雪や野辺もちの義 橋 洛 舎六
見ぬふりの見ぬ雪の咲、 斗九賀
花は夜木のみ雪は我住家、 蓮和
雪七日うちも法く仕舞ふ、 後楽
初さくら咲く仕舞ふ、 管鳥

春もすなほ横の中の落れば、杜鵑
世の中や花見る山よ杜鵑よ、桂郎
あるは物思ひ千ちぶ花のさかり、在貫
うりもみぢ水無月六月横手、春也
さくら形ふ新よ鶴くれ書、双南
ちぶ人世花のうけ花瓶、落
咲れ乃ち路の外のうきの花、芹水
菖蒲のちるまうつて庭横、駈冊
花よりも紙の先侵れ、百池

芭蕉のしろよ笑ひ島、立芳
よの色の芭蕉も三人、菖年
雨と蕉と住あいさつも咲ふきと、鹿古
十分ふまきをすきて蕉供養、其成
ちるも花はとりかちちぶ横、馬印
押ひく峰一ツちぶ、芦涯
雨の雨も雅よやとうと蕉、土卵
山さくら花よりとよ雨、月峰
かとうの花の雨も蕉ふ、行脚 青錢

国立国会図書館　タイトル『花供養』　請求記号 863-98
ガラス使用

消
863
98

14174

ちとさゝぬ宗匠る一人三人うれ　洛　可董
桜ちるとて八叶るるうれ　月の勝まく　漢水
とりのさゝるるとて拾ろう山桜　斗入
ちみつる浦や月の桜哉　芦蝶

洛東

芭蕉堂藏板

書林　京四條通河原町西へ入丁
勝田吉右衛門

国立国会図書館　タイトル『花供養』　請求記号 863-98
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『花供養』 請求記号 863-98

ガラス使用